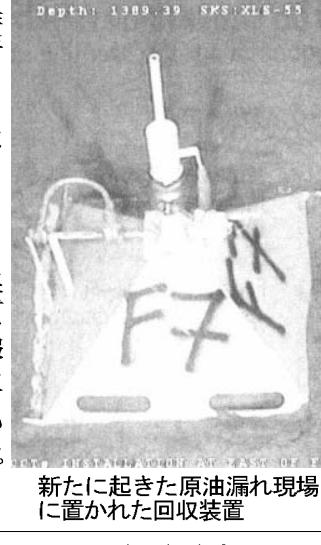


連邦警察と連邦検察がシエプロン起訴

連邦警察と連邦検察が、11年11月7日に起きたリオ州沖のカンボス盆地フランデ油田での原油流出事故と今月確認された新たな原油漏れは、シエプロン社が必要以上に強い圧力をかけて採掘を行おうとしたために起きたとの報告をまとめ、同社を起訴する可能性が強まってきた。

新たな漏れも報告遅れる



新たに起きた原油漏れ現場に置かれた回収装置

必要以上の圧力利用での国内操業禁止の可能性も

は両社がコントロールでいる。

報告をまとめている。

作業を進めているとの見解も明確にしている。

は、シエプロン社が運営する範囲を超えており、現場付近では海底が沈没している事はシエプロン社も認めているが、連

東西南北

舞つて言つてたよ。本当にその通りだ

この報道と前後して、涼しい風が立ち始めた。

わたり、秋が始まった。日

本なら春分の日が当たる

伯国にとって夏から秋

の節日。日本でも春分

の日と秋分の日は年によ

り日付が違うが、今年の

夏は20日未明に終わる

月ととしては1年間で

最高の販売記録で、人口

100人あたりの携帯電

話回線数は126・45

月としては1年間で

累積は既に2億4760

万回線。1月比1%増で

8・11%で少数派

8・11%で少數派

</div

ニッケイ俳壇

(690)

星野 瞳 選

セーラードスクリューステイス 楠口玄海児

春灯の出西も東も地平線

力ナリオト羽居れば姫ましき

キヤベツの玉なくなる程の雹の害

菴を守る大甘えん坊夏隣

○作者が住むクリスタイス言う土地は

雪国に生まれて愛して老いを生く

日脚伸ぶ針持つ指の確かなり

雪國に生まれて愛して老いを生く

ワイパーの止る時なき吹雪路

足歩み重ねる時なき吹雪路

春陽受く余生睡魔に誘われて

○作者は、生まれた国が寒かろうが、暑かろう

が私達は愛して生きなければ成らないと教えて

いる。

○ボツカツの峠より湧ける夏の雲

雷鳴の一喝に逃げる園の子等

豊かな風に心地よい出迎え

白壁に踊るブルーの反射光

サンショゼドスカンボス

大月 春水

クアレズマ森染めて咲く里帰り

い、椰子の皮脱げばは竹の皮脱ぐに類する

のではと思うこれも夏の季題に入っている。

スコールの迫るは早し滝と降る

老いの背を帆にして立風を馳す

たゆとうて水難現場の手向け花

のではと思うこれも夏の季題に入っている。

春泥に聴きたき向うの里話

春水

山装ふ飛び交ふ小鳥姫ましく

遊園地これは見事な鬼薄

春泥に聴きたき向うの里話

パウル

小川 豊喜

回転ドア出すれば忽ち夏光

薄物を着るとは華やまとこと

老いの背を帆にして立風を馳す

たゆとうて水難現場の手向け花

のではと思うこれも夏の季題に入っている。

バウル

秋めくや今日のと日を大切に

秋桜老たのします散歩道

足きばき堂に入つたりサンバの児

生き甲斐はランの手入れと

老夫婦

井上富美子

カルナバル献血募るテレビ

かな

新保 美代

西野すみ子

仲秋や世界が協力復興に

ごむ

園田 昭代

秋空に国境監視のヘリコプター

アチバイア

南伯の広野煙吐く火車走り抜け

シマロン茶ガウシヨのシヨーに見惚れけり

この暑さおかげで野菜よく売れる

マリンガ

野々瀬真理子

四〇度以上の暑さの夏の屋

世はまさに天国と云ふカルナバル

カナルナバル

春泥に聴きたき向うの里話

カンピーナス俳句会

(3月分)

字余り字足らずになつた場

合それを不自然と感させ

いたるため瓦礫を人

を倒す

ない工夫

サントリーでも

島田喜枝

もせず時々目さましま

マイ

もせず時々目さましま

マイ

と云うも

島田喜枝

をふたり見んと夫を呼び

佐々木絆華が創刊し、28

年に「馬辞本」と改題

水

原秋桜子が永年にわたつて

主宰を務め、昭和の俳句に

大きな影響を及ぼした結社

である。今年1月から秋

誕生祝の祖父母におくる

青柳 房治

40周年を迎えた。女性俳

サントリーでも

青柳 房治

の伝統が引き継がれて

夫と二人でラジ

サントリーでも

塩沢 婦美

の伝統が引き継がれて

夫と二人でラジ

サントリーでも

青柳 房治

の伝統が引き継がれて

夫と二人でラジ

サントリーでも

青柳 房治

の伝統が引き継がれて

夫と二人でラジ

夫と

